

2016年(第27回)福岡アジア文化賞 受賞者一覧



大賞

A.R.ラフマーン

インド / 音楽(1967年生まれ)

A.R.ラフマーン氏は、世界的な映画音楽の作曲家として優れた実績を残し、映画音楽の新境地を開拓して、あらためてこの分野が注目される契機を作ってきた。南アジアの伝統音楽、西洋のクラシック音楽、アメリカのヒップホップなど現代の大衆音楽を大胆に融合させ、甘美なメロディーを強烈なビートにのせた楽曲の数々は、氏が音楽を担当した名作映画の題名とともに、多くの人々の心に刻まれている。



学術研究賞

アンベス・R・オカンポ

フィリピン / 歴史学(1961年生まれ)

アンベス・R・オカンポ氏は、優れた歴史学者であり、大学教員、コラムニスト、歴史・文化行政の責任者や顧問として、フィリピンの学術・文化・社会の発展に貢献する知識人である。フィリピンの歴史がグローバルなネットワークのなかで展開してきたことを分かりやすく説明し、開かれたナショナリズムの発展と国際交流の推進に大きな役割を果たしている。



芸術・文化賞

ヤスミン・ラリ

パキスタン / 建築(1942年生まれ)

ヤスミン・ラリ氏は、パキスタン初の女性建築家として現代建築を手がける一方、パキスタン・ヘリテージ財団を創設し、歴史的建造物の保存と修復活動を行ってきた。また、2005年パキスタン大地震を機に人道支援活動へも力を注ぎ、同国における社会文化活動の先駆的な女性リーダーとして、文化遺産保護と災害に強い社会づくりに貢献している。

大賞 A.R.ラフマーン

(インド／音楽)

【贈賞理由】

A.R.ラフマーン氏は、インドのみならず世界的にも高名な映画音楽の作曲家として、この分野の新しい可能性を切り開く優れた実績を残し、あらためて映画音楽という存在が注目されることに貢献してきた。映画のジャンルや内容に応じて、南アジアの伝統音楽、西洋のクラシック音楽、アメリカのヒップホップなど現代の大衆音楽を大胆に融合させ、甘美なメロディーを強烈なビートにのせた楽曲の数々は、氏が音楽を担当した名作映画の題名とともに、多くの人々の心に刻まれている。

1967年チェンナイ（旧マドラス）に生まれたラフマーン氏は、9歳の時に音楽家の父と死別。家計を支えるためにキーボード奏者としてさまざまな楽団で演奏し、その後英国トリニティ音楽院に特待生として留学し西洋音楽を学んだ。1987年から広告業界で作曲家としてのキャリアを開始し、多くのコマーシャル・ソングを手がけるなか、新鋭の映画監督マニ・ラトナムが氏の才能に注目して『ロージャー』（1992年）の音楽監督に抜擢、同作の大ヒットとともに映画界に衝撃的なデビューを飾った。その後、『ボンベイ』（1995年）、『ムトゥ 踊るマハラジャ』（1995年）、『ラガーン』（2001年）など、日本でも知られる諸作の音楽を手がけ、新世代のインド映画を代表する人物として認知されるに至った。

21世紀に入ると諸外国の大作に参加する機会も増え、とりわけ『スラムドッグ\$ミリオネア』（2008年）は世界的な大ヒットとともに、ゴールデン・グローブ賞、英国アカデミー賞、米国アカデミー賞など数々の映画賞を獲得。ラフマーン氏自身もインド人初のオスカー受賞（作曲賞、歌曲賞）を果たし、その名声は世界的なものとなった。

また、映画以外にも活動の場を広げ、2002年に作曲家アンドリュー・ロイド＝ウェバーの依頼でミュージカル『ボンベイドリームス』を創作。英国公演の大成功を受けて世界を巡回し、2015年には日本でも上演された。自ら楽団を率いた世界ツアーを精力的に行いながら、基金設立による恵まれない人々への支援や、チェンナイに音楽学校を創設し後進の指導にあたるなど、社会貢献活動にも尽力している。

ラフマーン氏の音楽の大きな魅力は、映画を引き立てながら、楽曲自体も一度聴いたら忘れられない甘美なメロディーと強烈なビートを併せ持っている点である。チェンナイの大衆的な映画や音楽のなかで育った氏は、青年期にスーフィズム（イスラーム神秘主義）に傾倒し、宗教歌謡カワワーリーの巨匠、故ヌスラット・ファテ・アリ・ハーン（1996年福岡アジア文化賞芸術・文化賞受賞者）からも大きな影響を受けた。アジアと西洋、伝統と現代を大胆にアレンジし融合させる氏のユニークな創作にはこうした体験も反映されている。

このようにA.R.ラフマーン氏は、その個性的な楽曲で映画音楽の新境地を開拓して、あらためてこの分野が注目される契機をつくり、インドのみならず世界的に高く評価されている。その貢献は、まさに「福岡アジア文化賞 大賞」にふさわしい。

第27回福岡アジア文化賞 大賞

A.R. ラフマーン

インド

作曲家、作詞家、歌手

1967年1月6日生 (49歳)

経歴

- 1967 インド、タミル・ナードゥ州チェンナイ生まれ
- 1978 キーボード奏者として様々な楽団で演奏
- 1987-92 広告およびインドのテレビ用に300以上のコマーシャルソングを作曲
- 1992 マニ・ラトナム監督のタミル映画『ロージャー』の音楽を作曲
- 1995 『ボンベイ』(1995)のために作曲した、ボンベイ・テーマが世界で50以上のアルバムに使用される
- 2000-08 音楽ディレクターとして、マニ・ラトナム、シャード・アリ、アシュトーシュ・ゴーワリケール、シャンカルなどといった監督の50本を超える映画音楽を担当
- 2002 アンドリュー・ロイド＝ウェバー(『オペラ座の怪人』作曲)に招かれてロンドンで上演するミュージカル『ボンベイドリームス』の作曲を担当
- 2005 米国タイム誌、オールタイム世界ベスト・サウンド・トラックのトップ10に『ロージャー』が選ばれる
- 2006 自身のレコードレーベル「KM Music」を設立
- 2007 英国ガーディアン紙「死ぬまでに聴きたいアルバム1000」に『ボンベイ』のサントラが選ばれる
- 2008 インド、チェンナイで音楽学校「KM Music Conservatory」を設立し学長を務める
- 2009 米国タイム誌「世界で最も影響力のある100人」に選ばれる
- 2010 AR Rahman基金を設立
2010年ノーベル平和賞コンサート出演
- 2011 『127時間』でアカデミー賞、ゴールデン・グローブ賞、英国アカデミー賞にノミネート
ミック・ジャガー、ジョス・ストーン、ダミアン・マーリー、ディヴ・スチュワートからなる「スーパーヘヴィ」に参加

受賞歴

*複数年の受賞歴あり (この他国内外で多数の受賞歴あり)

- 1992 タミル・ナードゥ州映画賞最優秀音楽監督賞(『ロージャー』)*
ナショナル・フィルムアワード最優秀音楽監督賞(『ロージャー』)*
- 1993 フィルムフェア賞南インド部門最優秀音楽監督賞(『ロージャー』)*
- 1994 サンスクリット賞(サンスクリット財団より)
- 1996 モーリシャス賞、マレーシア賞
- 2000 インド国勲章パドマ・シュリー章
国際インド映画アカデミー賞最優秀音楽監督賞(Taal) *
- 2008 米国、放送映画批評家協会賞作曲賞(Critics' Choice Award)(『スラムドッグ\$ミリオネア』) *
- 2009 第81回米国アカデミー賞 作曲賞、歌曲賞(『スラムドッグ\$ミリオネア』)
英国アカデミー賞 最優秀映画音楽賞 (『スラムドッグ\$ミリオネア』)
ゴールデン・グローブ賞 作曲賞 (『スラムドッグ\$ミリオネア』)
グラミー賞 映画・テレビ・映像メディアサウンドトラック・アルバム賞(『スラムドッグ\$ミリオネア』)、
楽曲賞 (Jai Ho)

- 2010 インド国勲章パドマ・ブーシャン章
2011 米国、放送映画批評家協会賞(Critics' Choice Awards)歌曲賞（『127 時間』）

主な映画作品(作曲担当)

- 『ロージャー』 (1992) *Roja*
『ボンベイ』 (1995) *Bombay*
『ムトゥ 踊るマハラジャ』 (1995) *Muthu*
『ジーンズ〜世界は二人のために〜』 (1998) *Jeans*
『ディル・セ 心から』 (1998) *Dil Se..*
『パダヤッパ いつでも俺はマジだぜ!』 (1999) *Padayappa*
『ラガーン』 (2001) *Lagaan*
『バーバー』 (2002) *Baba*
『ヘブン・アンド・アース 天地英雄』 (2003) *Warriors of Heaven and Earth*
『インサイド・マン』 (2006) *Inside Man*
『エリザベス：ゴールデン・エイジ』 (2007) *Elizabeth: The Golden Age*
『スラムドッグ\$ミリオネア』 (2008) *Slumdog Millionaire*
『127 時間』 (2010) *127 Hours*
Rockstar (2011)
『ボス その男シヴァージ』 (2012) *Sivaji*
『命あるかぎり』 (2013) *Jab Tak Hai Jaan*
『マダム・マロリーと魔法のスパイス』 (2014) *The Hundred-Foot Journey*
『ミリオンダラー・アーム』 (2014) *Million Dollar Arm*
O Kadhal Kanmani (2015)
Mumbai Musical (2017)

主な CD 作品

- Vande Mataram* (Columbia/SME Records, 1997)
『ムトゥ 踊るマハラジャ』 *Muthu* (Alter Pop, 1998) 日本で最も人気が高かった外国映画サントラ
Introducing Ar Rahman (Saregama, 2006)
『スラムドッグ\$ミリオネア』 *Slumdog Millionaire* (日本版：ユニバーサルミュージック、2009)
Couples Retreat (Relativity Med. Sdtk, 2009)
Best of Ar Rahman: Music & Magic From The Composer (Sony Legacy, 2009)
& The Award Goes To (Sony Music, 2010)
『コネクションズ』 *Connections* (Wrasse Records, 2010)
『スーパーヘヴィ』 *SuperHeavy* (Polygram, 2011)
Raunaq (Sony Music, 2014)

学術研究賞 アンベス・R・オカンポ

(フィリピン／歴史学)

【贈賞理由】

アンベス・R・オカンポ氏は、優れた歴史学者であり、大学教員、新聞や雑誌のコラムニスト、歴史文化行政の責任者や顧問として、フィリピンの学術・文化・社会の発展に大きく貢献している知識人である。フィリピンの歴史が、スペインと米国の植民地支配を受けたことにより、広くグローバルなネットワークのなかで展開してきたことを分かりやすく説明し、開かれたナショナリズムの発展とアジアや欧米との国際交流の推進に尽力している。

オカンポ氏は、1961年マニラに生まれ、デ・ラ・サール大学でフィリピン学の修士号を取得。1985年から新聞や雑誌などで歴史と文化に関する連載コラムやエッセーを書き始め、それらを『Looking Back (過去を振り返る)』(1990年)と『Rizal Without the Overcoat (外套を脱いだリサル)』(1990年)の2冊にまとめて出版し好評を博した。その後、ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院への留学、マニラにあるモンセラート聖母修道院での修道生活を経て、再び教育、文筆、講演などの活動に戻り、今までに20冊を超える著作を発表している。

著作の内容は、19世紀後半にスペイン植民地統治の改革を目指すプロパガンダ運動を推進したホセ・リサルをはじめ、その運動が急進化して1896年の独立革命へと発展してゆく際に活躍したアポリナリオ・マビニ、アントニオ・ルナ、エミリオ・アギナルドらの指導者に関するものと、広く近現代史の諸側面に関わるものに分けることができる。

いずれの著作も、英雄や偉人とされる人物の思想や言動を分かりやすく解説すると同時に、彼らを喜怒哀楽の感情をもつ等身大の人間として描くことを通して、また彼らの生活の諸相や、時代の気分、文化の香りまでを具体的な質感をもって書き込むことにより、歴史を生き活きとした物語として市民に提供している。これにより、幅広い世代の市民が、歴史を身近に感じ、過去への関心を持ち続けることに大きな役割を果たしている。オカンポ氏は、これらの著書や、メディアを通じた活発な発言等を通じて、歴史を市民の共有財産とし、またフィリピンの歴史を作った運動家や指導者たちが、欧米や近隣アジアとの密接な交流と交友の中で活動したことを示すことで、市民の開かれた国民意識と国際感覚を育むことに寄与している。

また、フィリピン国立歴史研究所長(2002年-10年)、フィリピン国家歴史委員会長(2010年-11年)、アテネオ・デ・マニラ大学歴史学科長(2010年-12年)等を歴任し、とりわけフィリピン国家文化芸術委員会長在任時(2005年-07年)にはベトナム、パキスタン、北朝鮮と文化協定を結び、中国、フランス、メキシコと文化人交流プログラムを締結するなど、文化行政や教育面での貢献も大きい。

歴史を市井の人たちの身近なものへと取り戻し、フィリピンの開かれたナショナリズムと国際感覚の育成に寄与しながら、国際文化交流に多大な貢献をしてきたアンベス・R・オカンポ氏は、まさに「福岡アジア文化賞 学術研究賞」にふさわしい。

第27回福岡アジア文化賞 学術研究賞

アンベス・R・オカンポ

フィリピン

歴史学者、ジャーナリスト、作家、文化行政官

アテネオ・デ・マニラ大学准教授

1961年8月13日生 (54歳)

経歴

- 1961 フィリピン、マニラ生まれ
- 1985-87 週刊誌フィリピン・デイリー・エクスプレス編集委員
- 1987-90 日刊紙フィリピン・デイリー・グローブ論説ページコラムニスト
- 1989 フィリピン、デ・ラ・サール大学卒業 (フィリピン学)
- 1989-2010 フィリピン大学ディリマン校専任講師
- 1990 デ・ラ・サール大学修士号 (フィリピン学)
- 1990- 日刊紙フィリピン・デイリー・インクワイアラー論説ページコラムニスト
- 1993-97 モンセラート聖母修道院修道士
- 1996-98 マニラ歴史遺産委員会共同議長
- 1997-98 マニラ市立大学学長
- 1998-2010 フィリピン国立歴史研究所理事 (2002-10年は所長)
- 2000 フルブライト上級研究員
- 2002-11 フィリピン国家文化芸術委員会理事 (2005-07年は閣僚級の会長)
- 2003 京都大学東南アジア研究所客員研究員
- 2007-11 マラカニアン宮殿大統領府外交儀礼オフィス来賓責任者
- 2008 フィリピン工芸大学名誉博士号 (行政学)
- 2008- アテネオ・デ・マニラ大学社会科学部歴史学科准教授 (2010-12年は歴史学科長)
- 2010 日本財団 API フェローシップ フェロー
- 2010-11 フィリピン国家歴史委員会会長
- 2014 国際文化会館及び国際交流基金 アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラムフェロー
- 2015-17 アテネオ・アート・ギャラリー諮問委員
- 2015- 国際交流基金アジアセンターの運営に関する諮問委員会委員
上智大学アジア文化研究所客員所員

主な受賞歴

- 1990 ナショナル・ブック・アワード エッセー部門
- 1992 ナショナル・ブック・アワード 文学史部門
- 1993 ナショナル・ブック・アワード 書誌部門
- 1997 フィリピン・ジェイシース・ロクサス財団、優秀な青年10人 歴史部門
- 2007 スペイン王国、文民功労勲章
- 2008 フランス政府、芸術文化勲章オフィシエ
- 2010 フィリピン共和国、グランドクロス、ラカンドゥラ勲章
- 2013 フィリピン共和国、大統領メリット勲章
- 2014 メトロポリタン銀行財団継続優秀賞 (教職)
- 2015 ホアン・D・ネポムセノ研究賞・奨学金
- 2016 Gawad Tanglaw ベスト・コラムニスト賞 (フィリピン・デイリー・インクワイアラー論説ページコラム)
2015年にも同賞受賞

主な著作

Looking Back, フィリピン: Anvil Publishing, 1990. (改訂, 2009)

Rizal Without the Overcoat, フィリピン: Anvil Publishing, 1990. (改訂, 2011)

Makamisa: The Search for Rizal's Third Novel, フィリピン: Anvil Manila, 1992. (改訂, 2008)

A Calendar of Rizaliana in the Vault of the Philippine National Library, フィリピン: Anvil Publishing, 1993; 改訂版, フィリピン: University of Santo Tomas Publishing House, 2011.

Talking History: Conversations with Teodoro A. Agoncillo, フィリピン: De La Salle University Press 1995; 改訂版, フィリピン: University of Santo Tomas Publishing House, 2011.

Chulalongkorn's Elephants: The Philippines in Asian History, フィリピン: Anvil Publishing 2011; 改訂版 2015.

Two Lunas, Two Mabinis: Looking Back 10, フィリピン: Anvil Publishing, 2015.

History and Heritage of the Kudan: The Official Residence of the Philippine Ambassador to Japan, フィリピン: ArtPost Asia, 2015.

芸術・文化賞 ヤスミン・ラリ

(パキスタン／建築)

【贈賞理由】

ヤスミン・ラリ氏は、パキスタン初の女性建築家として多くの現代建築を手がける一方、パキスタン・ヘリテージ財団を創設し、歴史的建造物の保存と修復活動を行ってきた。また、2005年パキスタン大地震の際に開始した被災者支援プログラムを契機に人道支援活動へも力を注ぎ、同国における社会文化活動の先駆的な女性リーダーとして、歴史遺産保護と災害に強い社会づくりにおいて極めて重要な役割を果たしている。

ラリ氏は1942年、パキスタンのパンジャーブ州に生まれ、都市開発等を担当していた官僚の父の勧めで建築家を目指す。英国オックスフォード建築学校（現オックスフォード・ブルックス大学）で建築学を学んだ後に帰国し、1964年同国初の女性建築家として建築事務所を設立した。住宅や商業ビル等の現代建築を手がける一方、スラム街や不法居住者の生活改善や低コスト住宅の設計にも取り組んだ。1969年王立英国建築家協会メンバーに選出され、その後もパキスタン建築家協会会長、パキスタン建築家・都市設計家協議会初代会長を歴任し、同国における現代建築と都市開発に大きな影響を与えた。この間、カラチの金融貿易センター（1989年）、パキスタン国営石油会社本社ビル（1991年）等のデザインを手がけ『20世紀における世界の建築』（美術出版社ファイドン（英国）2012年）にも選ばれている。

また、ラリ氏は、1980年パキスタン・ヘリテージ財団を創設し、同国の歴史的建造物や文化遺跡を数多く保護してきた。1994年には同国シンド州の文化遺産保護法が制定され、600もの歴史的建造物を文化財保護の対象とすることにも貢献し、カラチの都市形成及び建築物の歴史に関する著作を多数執筆することで、同国の文化財の再発見・再評価と保存に大きな役割を果たしている。

さらに、2005年パキスタン大地震の復興に向けて、被災者支援プログラムを開始し、これを機に人道支援活動も手掛けるようになる。ラリ氏が提供するシェルターは、石灰や竹など現地調達可能な材料と土着的な手法を用いていることから、二酸化炭素の排出量が非常に少なく、被災者自らが簡単につくることができる。同時に、氏は女性やこどもの貧困問題にも取り組み、社会的弱者が自立するための能力向上支援も行っている。

このようなラリ氏の活動は社会的に高く評価され、2006年「ユネスコの60年に貢献した60人の女性」に選出され、2013年には、経済開発における女性の貢献を称える「第8回イスラム開発銀行賞」をパキスタン・ヘリテージ財団が団体として受賞。さらに氏は、国連防災世界会議をはじめ、さまざまな国際会議の招待パネリストとしても被災地における建設・開発と文化遺産保護のあり方について重要な発言を重ねており、2015年第1回シカゴ・ビエンナーレ国際建築展では国内避難民キャンプの低コスト住宅プロジェクトを出展し世界的な注目を集めた。

このようにヤスミン・ラリ氏は、パキスタン初の女性建築家として女性の社会的活躍に先駆的な道筋を与えながら、且つ文化遺産保護と災害に強い社会づくりに対してきわめて創造的な活動をしてきた。その貢献は、まさに「福岡アジア文化賞 芸術・文化賞」にふさわしい。

第27回福岡アジア文化賞 芸術・文化賞

ヤスミン・ラリ

パキスタン

建築家、建築史家、文化遺産保存活動家、人道支援活動家

パキスタン・ヘリテージ財団共同創設者・会長

1942年6月28日生（73歳）

経歴

- 1942 パキスタン、パンジャーブ州デラ・ガージ・カーン市生まれ
- 1963 オックスフォード建築学校（現オックスフォード・ブルックス大学）卒業（建築学）
- 1964-2000 建築事務所「ラリ・アソシエイツ」設立、代表
- 1969 王立英国建築家協会メンバーに選出
- 1980-83 パキスタン建築家協会会長
- 1980- パキスタン・ヘリテージ財団共同設立、会長
- 1983-86 パキスタン建築家・都市設計家協議会初代会長
- 1994-97 パキスタンシンド州の文化遺産保護法が制定され、パキスタン・ヘリテージ財団が報告したカラチの歴史的建築物600件が文化財保護の対象となる
- 2003-05 ユネスコナショナルアドバイザー（世界危機遺産ラホール城塞 シシュ・マハールプロジェクト）
- 2004 アメリカ、アショカフェロー
- 2005- パキスタン・ヘリテージ財団人道支援部を設置
2005年パキスタン大地震被災者支援プログラム「Heritage for Rehabilitation and Development（復興および開発のためのヘリテージ）」を開始（ノキア・シーメンス・ネットワークとの共同プロジェクト）
- 2007-14 パキスタン地震救援復興局理事
- 2009 パキスタン、マルダンに国内避難民キャンプ設立
- 2010 紛争後のスワートにおいてユネスコ助成による女性エンパワメントプログラムリーダー
- 2015 第1回シカゴ・ビエンナーレ国際建築に出展
- 2016 王立英国建築家協会主催建築展示会「災害からの創造」に出展

主な受賞歴

- 2006 パキスタン政府より第三勲章 Sitara-i-Imtiaz
- 2011 ナショナル・ヒーロー財団主催第1回パキスタン ワンダー・ウーマン・オブ・ザ・イヤー
- 2013 第8回イスラム開発銀行賞（パキスタン・ヘリテージ財団）
- 2014 パキスタン政府より第二勲章 Hilal-i-Imtiaz

主な著作

Traditional Architecture of Thatta, カラチ：ラリ・リサーチ・センター, 1989.

The Dual City: Karachi During the Raj（共著）, オックスフォード出版, 1997.

The Jewel of Sindh: Samma Monuments on Makli Hill（共著）, パキスタン：オックスフォード出版, 1997.

Kurrachee: Past, Present and Future（共著）, オックスフォード出版, 1998.

Karachi: Illustrated City Guide, オックスフォード出版, 2001.

Governor's House Lahore, Punjab Government, Lahore, 2008.

Build Back Safer with Vernacular Methodologies, パキスタン・ヘリテージ財団, 2011.

主な設計建築物

タージ・マハールホテル (1981)
パキスタン金融貿易センター(1983-89)
パキスタン国営石油会社本社ビル(1985-91)
ABN アムロ銀行ビル (2000)

主な文化遺産保護活動

1981 カーイデ・アーザム邸美術館 (19 世紀)、カラチ
1982 中央郵便局 (19 世紀)、ラホール
2003-05 世界遺産ラホール城塞(ユネスコ 危機遺産 シシュ・マハールプロジェクト)、ラホール
2012 Samma Noble I 墓 (15 世紀)、世界遺産登録地マクリ
2013 Ashabi モスク (16 世紀)、世界遺産登録地マクリ
2014-16 スルタン・イブラヒムおよび アミール・スルタン墓 (16 世紀)、世界遺産登録地 マクリ

主な人道支援活動

Heritage for Rehabilitation and Development (復興および開発のためのヘリテージ)
-2005 年パキスタン大地震被災者支援プログラム (ノキア・シーメンス・ネットワークとの共同プロジェクト)
Build Back Safer with Vernacular Methodologies(土着的手法によるより安全な再建)
-洪水被災者のための二酸化炭素ゼロシェルター・プログラム(国際移住機関と4万戸のシェルターを建設, 2012-14)
- Barefoot Entrepreneurs (裸足の起業家) プログラムにより、低燃費で煙や二酸化炭素が少なく低コストな土製ストーブキッチンを3万個以上建設 (2014-16)
Lari Adobe Green Shelter(ラリ式日干しレンガのグリーン・シェルター)
- 2013 年および2015 年の地震のために設計した土・竹および石灰を使用したシェルター
- 振動台実験のシミュレーションで阪神淡路大震災比で275%以上の耐震度を示す

2016年(第27回)福岡アジア文化賞 公式行事一覧

2016年(第27回)福岡アジア文化賞授賞式

- 2016年9月16日(金)／18:30～20:00
- アクロス福岡1階 福岡シンフォニーホール

祝賀会(受賞者の栄誉を讃える祝典)

- 2016年9月16日(金)／20:20～21:30
- アクロス福岡地下2F イベントホール

学校訪問(受賞者から次世代を担う青少年へメッセージ発信)

- 2016年9月15日(木)ほか
- 福岡市内の学校

市民フォーラム(受賞者による講演ほか)

大賞受賞者:A.R.ラフマーン氏によるフォーラム

「From the Heart:A.R.ラフマーンの音楽世界」

- 2016年9月17日(土)／17:00～19:00
- アクロス福岡地下2F イベントホール

学術研究賞受賞者:アンベス・R・オカンポ氏によるフォーラム

「歴史における記憶と忘却:日本とフィリピンの関係から考える」

- 2016年9月18日(日)／11:00～13:00
- アクロス福岡地下2F イベントホール

芸術・文化賞受賞者:ヤスミン・ラリ氏によるフォーラム

「災害から創造的復興へ:素足の被災者を蘇らせたラリの草の根建築デザイン」

- 2016年9月18日(日)／14:00～16:00
- アクロス福岡地下2F イベントホール